

## 平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「手をつなごう 未来へ」を合言葉に、子どもたち一人ひとりの自立と社会参加をめざし、学校・保護者・関係機関の連携を図りながら充実した教育活動が展開される明るく元気な学校をめざします。

- (1) 児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズをふまえた教育活動が展開する学校
- (2) 自立・社会参加に向け保護者や関係機関との連携体制がとれている実効性のある学校
- (3) 地域でのセンター的役割も発揮できる高い専門性が集積された学校
- (4) 毎日、明るく元気に学校生活を送れる健康で安全・安心な学校

## 2 中期的目標

## 1 保護者と連携を強化し、一人ひとりの教育的ニーズをふまえた教育活動の展開

- (1) 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の充実、活用、実効性を高めるとともに、一人ひとりの障がいの程度や内容、教材等を研究し、活用する。  
※自己診断での保護者の「個別の教育支援計画」に基づいた適切な支援については73%の評価を得た。85%をめざす。

- (2) 「学校教育自己診断」を毎年実施し、課題の整理、改善に努め、教育の内容と質の向上を図る。

※保護者の提出率が平成24年度54%であり、80%をめざす。

## 2 自立・社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実

- (1) それぞれの発達段階に応じたキャリア教育の実践を通じ、推進する。

※自立への自己肯定感を高め、自己選択・自己決定する力を育てる。

- (2) 保護者へのキャリア教育や進路指導に係る情報提供の充実を図り、進路指導をサポートする。

※平成24年度の教職員向け学校教育自己診断における進路の情報提供肯定率、教職員は85.7%であるが保護者は70%である。平成23年度より差は縮まったが、さらに差を縮めていく。

- (3) 関係機関との連携やネットワークを活用し進路先の拡大・確保を図る。

※中河内・南河内ブロック等で密に連携をとり、さらにネットワークを活用していく。関係機関との連携を拡大していく。

## 3 センター的機能の充実・発揮と教員の授業力・専門性の向上

- (1) 小学部・中学部とともに担当ブロック内の学校と連携支援を充実させる。

※リーディングスタッフの育成とコーディネーターも育成し地域支援を行う。

- (2) 人材育成をめざすとともに、教員の授業力と専門性、キャリア教育を推進する力の向上を図る。

※教育実践のための校内研修や校外での研修の肯定率80%をめざす。

- (3) ICTの活用等を工夫し、教育実践に活かす。

※情報機器の整備を進めるとともに情報機器の実践力の向上をめざす。

- (4) 特別支援教育に係る免許保有率60%以上をめざす。 ※平成24年度は40%であった。

## 4 安全・安心な学校づくりの推進

- (1) ・一人ひとりの人権を尊重した生徒指導の取り組みを推進する。

※人権を尊重した生徒指導を進めるため、人権委員会と生徒指導部の協働により迅速な対応ができる拡大人権委員会を作る。

・お互いを尊重した内容を検討し、交流を充実させる。

- (2) 安全教育や健康教育（食育を含む）の実践の進化。

※保健だより、食育だより（食物アレルギーについての対応等の情報発信）。

- (3) 危機管理マニュアルを毎年検証し、安全で安心な学校づくりを推進する。

※防災（特に地震）マニュアルを検討する。プール緊急時対応と行方不明対応（校外指導における）マニュアルをさらに整える。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 25 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○保護者、生徒、教職員を対象に実施(%は肯定的意見)</p> <p><b>【回収率】</b> ・保護者(68%) 生徒(66%) 教職員(100%) 回収率が保護者で14%、生徒で11%昨年度よりも上昇した。協力の呼びかけを行ったことと、学校教育への関心が高まっていることがアップにつながったと考えられる。教職員については3年連続で100%の提出率である。</p> <p><b>【生徒】</b> ・10問中8問が肯定的意見であり、楽しく学校生活を送っている様子がうかがえる。「進路」に関する設問では肯定的意見が25%と数値的には低いものの、「分からない」という回答が52%もあり、1、2年生について進路の取り組みを昨年度以上に行っているが、より関心が高める取り組みの必要性がある。</p> <p><b>【教育活動全般の共通項目(25項目)について】</b> ・22項目が高い評価(70%以上)であった(昨年度は19項目)。増えたのは「安全教育」に関する項目と、「進路」に関する項目であった。いずれも保護者への情報提供の結果だと分析できる。反対に肯定的意見が減少したのは、「授業」に関する項目で、授業に関する情報の提供が課題として浮かび上がった。</p> <p><b>【学校運営(28項目)について】</b> ・19項目が高い評価(70%以上)であった(昨年度は21項目)。「学校運営」に関する項目で減少がみられ、特に分掌等の業務についての否定的意見が多かった。閉校に向けた業務が加わり、教員の負担が増加したことと分析できる。「研修」「進路」に関する項目では評価が上昇し、取り組みの継続が望まれる。</p>	<p><b>第1回(平成 25 年 7 月 1 日)</b> ・学校協議会実施要項(保護者との連携を深める。) ・学校経営計画(ICT 教育で具体的な取組みを重ね、教員間で情報共有する。中期目標を新校開校に向けた H26 年度までとする。) ・各学部報告(新入生の急増、卒業後の企業就労の現状など課題は多いが、関係諸機関との連携を深め、課題解決へ向けて取り組む。)</p> <p><b>第2回(平成 25 年 11 月 26 日)</b> ・居住地交流(昨年度より参加増。今後も継続的に取り組む。) ・授業アンケート(授業に対しては高評価を得ているが、結果を教員にフィードバックし、今後にかす姿勢が必要。) ・平成 26 年度使用教科書について(授業で活用できるものを選定している。)</p> <p><b>第3回(平成 26 年 2 月 21 日)</b> ・学校教育自己診断において、キャリア教育に関する保護者の評価が低い。文言の説明を丁寧にするべき。 ・初任者・経験の少ない教員のニーズに合った研修になっているか、検証が必要。 ・学校教育自己診断において、保護者からは概ね肯定的な評価を頂いているが、課題もいくつか見られる。次年度は取組みやすいところから取組まれるよう提言する。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
教育的ニーズを踏まえた教育活動の充実・展開	<p>(1)「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の充実、活用、実効性を高めるとともに、一人ひとりの障がいの程度や内容、到達度を踏まえた学習内容及び教材を研究し活用する。</p> <p>ア 保護者との連携の強化。</p> <p>イ 一人ひとりの課題に応じた教育活動の充実。</p> <p>ウ 個々の生徒に応じた学習内容及び教材等の活用。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒の実態把握と家庭との情報共有を図るため、学年通信や学級通信また進路通信(随時)、連絡帳(毎日)等で保護者への情報提供を図る。</p> <p>イ・家庭訪問、懇談会で個々の生徒の課題を保護者と共通認識し、目標を設定し「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の充実を図り活用する。</p> <p>・福祉医療関係人材活用事業(臨床心理士)を活用し相談体制を充実させる。</p> <p>ウ・学習指導内容及び教材等活用のため教材研究会や授業見学会等の研修を充実させる。</p> <p>・校内人的資源の活用や教材バンクを作成</p> <p>・教科会議において学習課題を検討し教材研究を進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・保護者向け自己診断結果における家庭との連携に関する肯定率98%(平成24年度93%)。</p> <p>・保護者向け自己診断結果における子どもの様子に関する肯定率95%(平成24年度92%)。</p> <p>イ 保護者向け自己診断結果における個別の教育支援計画に基づいた支援の肯定率80%(平成23年度73%)。</p> <p>ウ 保護者向け自己診断結果における教科学習に関する肯定率85%(平成24年度78%)。</p>	<p>ア生徒の実態把握と家庭との情報共有を図るため、日々の連絡帳は基より、学年通信や学級通信で保護者への情報提供ができた。</p> <p>・連絡帳などで学校の様子を知ることができる肯定率は90%</p> <p>・楽しく学校に通っている肯定率は83%(△)</p> <p>イ教育支援計画については保護者との話し合いがしっかりできてきている。個別の教育支援計画に基づいた適切な支援についてはもう少し話し合う時間を増やすことが望ましい。</p> <p>・わかりやすい説明の肯定率は84%</p> <p>・適切な支援では77%(○)</p> <p>ウ校内での研究授業(初任者8回)や授業見学会(見学期間3週間)、課題別研究会を実施した。教科会で課題を検討し授業に活かした。</p> <p>・生徒の課題にあった授業の肯定率71%(△)</p>
自立や社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実	<p>(1)それぞれの発達段階に応じたキャリア教育の実践を通じ、推進。</p> <p>ア 自立への自己肯定感を高める。</p> <p>イ 自己選択、自己決定する力を育てる。</p> <p>(2)保護者へのキャリア進路に係る情報提供を図り、進路選択をサポートするとともに教職員の進路の知識の共有化を高める。</p> <p>(3)関係機関との連携やネットワークを活用して進路先の拡大・確保を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア それぞれの発達段階に応じた自立への自己肯定感を高める。</p> <p>イ 自己選択、自己決定するために様々な学習、実習を経験する機会を作る。</p> <p>(2)</p> <p>・保護者へのニーズに答えられるように教職員の情報量の増加を図る。</p> <p>・進路懇談会・説明会を設け(年10回程)必要とされる情報を保護者に提供する。</p> <p>・校内での進路研修会等を増やし、教職員全体の進路選択についての知識の共有化をめざす。</p> <p>(3)</p> <p>・中河内・南河内ブロック協議会を中心に公共職業安定所、各市の福祉機関、生活支援センターとの連携し、進路先の拡大を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>・生徒の特性を把握し適切な実習の経験に繋げる。一人に2~3か所。</p> <p>・職場見学、講話、校内実習を多くする。就労・就労移行支援へチャレンジさせる。</p> <p>(2)</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断結果における情報提供及び支援の肯定率80%(平成24年度70%)。</p> <p>・校内研修計画に組み込む。</p> <p>(3)進路懇談会・説明会に協議会を活用し、事業所説明会を行い各機関との連携を深める。</p>	<p>(1)</p> <p>・企業開拓は 夏季を中心に65社(昨年43社)。その中で5社が雇用につながった(昨年2社)。(○)</p> <p>・就労をめざす生徒の実習体験を増やした。(ひとりにつき1社から3社)(○)</p> <p>(2)</p> <p>・進路主担が中心となり、経験の少ない教員対象にミニ研修会に取組んだ。教員の知識が豊富になり、保護者への情報提供及び支援に有効であった。必要な情報の提供と支援の肯定率74%(○)</p> <p>(3)</p> <p>・進路懇談会・説明会はできる限り多く機会を設けた(進路説明会3回、福祉懇談会1回、事業所説明会2回、保護者作業所見学会12回、進路日より7回)。引き続きフロンティアコースの取組みを充実させ、就労・就労移行支援へチャレンジさせる。(○)</p>
センター的機能の充実や専門性の向上	<p>(1)担当ブロック内の学校との連携支援の充実。</p> <p>(2)人材育成と教員の授業力と専門性の向上。</p> <p>ア 校内初任者研修の充実と人材育成を図る。</p> <p>イ 授業力と専門性の向上。</p> <p>(3)ICTの活用を教育実践に活かす。</p>	<p>(1)リーディングスタッフと地域支援コーディネーターを育成し地域支援を行う。</p> <p>(2)</p> <p>ア OJTを活用した人材育成。校内初任者研を充実させ、人材育成を図る。(年間25~28回実施)。</p> <p>イ 研究授業を行い授業力向上につなげる。(初任者全員が取り組む)校内授業見学会、教材交流会等の充実。</p> <p>(3)情報機器の整備を進め教育実践に活かす。</p>	<p>(1)今年度リーディングスタッフとコーディネーターを指名。</p> <p>(2)</p> <p>ア 校内研修の内容の充実の診断結果85%(平成24年度77%)。</p> <p>イ 計画的な研修の実施の診断結果85%(平成24年度86%)。</p> <p>(3)教育実践の交流を行う。</p>	<p>(1)リーディングスタッフとコーディネーターを指名し、地域支援として研修講師等、実践を重ねた。本校と共に中河内ブロックの幹事校として公開講座や研修会を開催した。(○)</p> <p>(2)ア 校内初任者研修を研究部と連携し、27回実施した。校内研修の内容の充実の診断結果肯定率79%(△)</p> <p>イ 2,3学期研究授業を行い授業力向上をめざした。計画的な研修の実施肯定率79%(△)</p> <p>(3)</p> <p>ICTを活用した授業は増えている。授業交流会を実施した。(○)</p>
安全で安心な学校づくりの推進	<p>(1)人権を尊重した生徒指導を推進。</p> <p>(2)安全教育・健康教育の実践の進化。</p> <p>ア 保護者向け情報発信の充実。</p> <p>イ 施設・設備の安全性及び美化の充実。</p> <p>(3)安全で安心な学校づくりの推進。</p> <p>ア 危機管理マニュアルの検証。</p> <p>イ ヒヤリハット事例の検証。</p>	<p>(1)・生徒指導部と協働し人権を尊重した生徒指導事象に対応する。組織を活かし課題解決をめざす。</p> <p>・人権研修の充実(年4回実施)</p> <p>・毎年企画の検討を行い、交流校3校との交流を充実させる。</p> <p>(2)</p> <p>ア 各種避難訓練(火災・地震・不審者・バス)の指導法を工夫し、生徒の安全確保能力の向上を図るとともに、保護者にねらいを伝える。防災教育を進める。保健日より・食育だよりの充実と活用。</p> <p>イ 安全性及び美化の充実をめざす。</p> <p>(3)</p> <p>ア マニュアルの検証を行い、活用しやすい形に整える。</p> <p>イ ヒヤリハット事例の活用。</p>	<p>(1)</p> <p>・拡大人権委員会を組織する。</p> <p>・生徒指導の迅速な対応肯定率91%維持をめざす。</p> <p>・交流日よりで情報発信。</p> <p>(2)</p> <p>ア 地震についての防災教育を進める(防災アドバイザーを活用して訓練を充実等)。</p> <p>イ 保護者の校内清掃満足度75%(平成24年度62%)。</p> <p>(3)</p> <p>ア 防災マニュアル(地震)を活用しやすい形に整える。</p> <p>イ ヒヤリハット事例を活用し再発防止を集約。</p>	<p>(1)生徒指導事象は例年に比べ減少。常に人権を尊重して対応に努めた。生徒の人権やプライバシーの配慮の肯定率は保護者76%(昨年度69%)、教職員84%(昨年度88%)であった。(△)</p> <p>(2)ア 学校日より、准校長ブログを通し情報発信に努めた。</p> <p>イ 保護者の校内清掃満足度は71%(昨年度62%)であった。(△)</p> <p>(3)</p> <p>ア 個々に必要な緊急マニュアルを作成した。</p> <p>イ 今年度は3件の事例をあげ再発防止を促した。(○)</p>